

# 藤井正志先生・三浦信宏先生 退職記念号発刊にあたって

藤井正志先生と三浦信宏先生が、2018年3月をもって退職されます。両先生は、2004年のビジネス学部創設以来のメンバーとして学部の基礎を確立され、その発展を牽引した功労者であります。その功績を讃え、感謝の意を表するため、『愛知淑徳大学論集 ビジネス学部・ビジネス研究科篇』を、藤井正志先生と三浦信宏先生の退職記念号として発刊いたします。

藤井正志先生は、1971年に一橋大学経済学部を卒業後、東海銀行に入行し1998年に退職されるまでの間、行内で多数の部門を経験されるほか、経済企画庁、東海総合研究所への出向や、金融の中心地であるロンドン、ニューヨークへの駐在など、さまざまなお立場から、金融実務に関わってこられました。1999年には、愛知淑徳大学ビジネスコミュニケーション研究所長として着任され、その後はビジネス学部の所属となり、豊富な実務経験をベースとした金融教育を実践されました。

学務においては、国際交流センター長やビジネス学部長などの重職を歴任されました。国際交流センター長時代には、天津外国語大学との複数学位取得制度を創設されるなど、本学の教育の国際化に貢献されました。また学部長としては、2010年のキャンパス移転・新カリキュラム導入直後の変革期において、学部運営にリーダーシップを発揮されました。研究者としては、日本金融学会、日本経営財務研究学会などに所属され、自らの実体験に基づく論文などを多数発表しておられます。

先生と私は、ふた回りほどの年齢差がありますが、いつも気さくに声をかけてくださり、フラットに接していただきました。「プライドが高く・気難しい」という小説やドラマに登場する銀行員のイメージが、微塵もあてはまることのない先生でした。また一方で先生は、困った人を放っておけない性格の方でもありました。あることを先生に相談すると「お困りでしょうから、私でよろしければお引き受けしましょう」と二つ返事で承諾いただいたことが、幾度となくあったことが思い出されます。

このように藤井先生は、センター長、学部長として組織を率いる一方で、深い惻隱の情を併せ持つリーダーでありました。

三浦信宏先生は、1971年に早稲田大学理工学部を卒業後、日本アイ・ビー・エムに入社され、2003年に退職されるまで、情報システム開発のプロジェクト運営やプロジェクトマネジャーの育成などに従事されました。同社在職中には、UCLAへの留学や、合弁会社への出向などを通じて、常にIT業界の最先端におられました。2003年には本学コミュニケーション学部

着任され、翌年には新設されたビジネス学部の所属となりました。前職でのご経験を生かして、学部だけでなく全学の IT 教育の底上げと発展に尽力されました。また研究者としては、情報処理学会、日本危機管理学会などに所属され、資格試験やアプリケーションに関するテキストを執筆し、思考能力開発等をテーマとする論文を多数発表しておられます。

本学における三浦信宏先生の功績は、ゼミナールの活動からはじまった Vege Gaga（ベジーガガ）を抜きにして語ることはできません。規格外野菜を有効活用するというこの活動は、テレビ、新聞、マーケティング専門誌、地域コミュニティ誌など、多様なメディアに繰り返し取り上げられ、愛知淑徳大学やビジネス学部のプレゼンス向上にも大いに貢献しています。この活動に代表されるように、ビジネス学部の教育におけるアクティブラーニング重視の伝統は、先生がその礎を築かれたと言っても過言ではありません。

先生のゼミは、常にナンバーワンの人気を誇っていました。実践的なゼミナール活動に加え、ユーモアセンス抜群でサービス精神旺盛な先生のことですから、学生が集まってくるのは自然なことでした。またスタッフの中にも先生のファンは多く、先生への感謝の言葉やご退職を惜しむ声が各方面から寄せられました。

このように、三浦信宏先生は、高い指導力を持ち、周囲の人々に敬愛される教育者として、すべての学部教員が師表とすべき人格者でありました。

われわれ残された教員は、お二人が築かれたビジネス学部の伝統を守りながらも、さらに発展・成長させていくことをここにお約束いたします。最後に、両先生のますますのご健康とご活躍をお祈りして、退職記念号のご挨拶としたいと存じます。

藤井正志先生・三浦信宏先生、長い間、本当にありがとうございました。

2018年3月

ビジネス学部長 三浦克人